



海外にも数多く出荷される「牛刀 梨地磨き」。依頼をすれば名前を刻 んでもらうこともできます。

い」と考えているそう。ごく自然

に、村に暮らしと仕事を根づかせ

ています。「同世代の人、新し

も年々増えて、つながり合っ



オレンジ色の炎が吹き出す炉に鋼 をのせた地金を差し入れる貴大さ ん。鍛接(たんせつ)の工程。

風を吹き込んできました。 が全国から集まるマルシェ型イベン 島市)に師事 整え、さらには藤安将平刀匠(福 改修し刃物の一貫生産を行う鍛冶 たばかりの二瓶貴大さん、麻美さ に「ものづくり」をテーマに、村に新 います。一方の麻美さんは地域おこ と。貴大さんはここに生産拠点を ト「山の向こうから」を開催。互い ん夫婦(大倉)。旧草野幼稚園を し協力隊となり、手づくりの逸品 上房を開所したのは令和元年のこ して刀鍛冶も学んで

ものづく チ 0



## 飯舘でつながり根づいた







キャンドルの展示・販売も行ってい ます。休憩スペースもあり、居心地の よさについ長居をしてしまいそう。



制作の用具が並ぶ工房の一室。 ワークショップ (予約制) も庭を望 むこのスペースで行います。

に、予約制でワー

花物語に出会う ンドル工房で い時間が流れる

キャ

優





がけるのは、村内・県内の花を使っ れる人と交流できる場所にした せて暮らしの提案ができたら」と、 ます。7月末には企画展「花のあ 後もこの工房を拠点に活動を続け たつながりを大切に、協力隊卒業 い」。大槻さんは、これまで築いてき を添えたアロマなども人気です。 納税」の返礼品にもなっている他、 隊の一員でもあり作品が「ふるさと 付けます。また、地域おこし協力 にさまざまなアイテムを組み合わ る暮らし展」を開催。「キャンドル 新作の開発も続々と。香りに物語 ル。金・土・日曜日のオープンを基本 (草野)が、民家を借り受けこつこ た、詩情豊かなボタニカルキャンド 新居はいずれ「体験で工房を訪 空き家を購入し引っ越しをし ろうそく作家の大槻美友さん 「村の方はフレンドリーで壁がな ムしてきた工房です。 クショップも受け

令和4年8月号 広報 いたて